

## 公益財団法人第五福竜丸平和協会 令和7年度(2025年)事業計画

本年は、第五福竜丸展示館開館から49年、第五福竜丸建造から78年、ビキニ水爆実験から71年目にあたる。こんにち戦争や殺戮が続けられるもとで、核による威嚇や核軍備・現役核弾頭の増強などがすすめられ、危惧すべき事態にある。

公益財団法人第五福竜丸平和協会は、協会定款と東京都の展示館設立趣旨にうたう「貴重な木造船・第五福竜丸の現物をとおして伝える」、「原水爆の惨禍を再び繰り返させないとの願いを込めて」保存展示が実現したことを踏まえ、都立第五福竜丸展示館からの諸事業を広く都民・市民にむけて取り組んできた。また、展示館建設時の東京都との協議で、この「展示施設を教養(教育)施設とする」との取り決めに基づき、社会的な発信をおこなう。

協会が展示館をとおしてすすめてきた広島・長崎をはじめ核兵器による被ばく被害の大きさと広がり、「世界のヒバクシャ」について伝えることを基本に取り組む。それに基づく常設展示や企画展などを構想し、第五福竜丸被災・ビキニ事件の影響やマーシャル諸島や世界の核による惨禍を伝える。

### 公益法人のかなめの事業としての展示館業務

- ・ 東京都からの委託業務、第五福竜丸展示館の管理運営は、第五福竜丸平和協会のかなめの事業である。今年度は開館308日(平日 241日、日・祝日 67日、休館日57日)となる。
- ・ 展示館来館者の安全、防災、防火などに万全を尽くす。
- ・ 学校、生涯学習グループへの見学の働きかけをはじめ展示館の活用を広げる。
- ・ 「展示館のしおり」の活用、学習教材の作成、教育現場での福竜丸・ビキニ事件などへの学習の実情の把握、学校や教員との繋がりをはかる。
- ・ 展示館と協会の事業を支える賛助会員などを広げる。第五福竜丸・ビキニ事件を知らせる取り組みとして『第五福竜丸は航海中』などの書籍の普及、広報資材の活用を広げる。

### 企画展【展示替え】等の取り組み

- ・ 都との契約にもとづく展示替え(常設展示の一部追加、企画展等の開催)にとりくむ。
- ・ 本年は広島・長崎の原爆の惨禍から80年、ビキニ事件を契機に発表されたラッセル＝アインシュタイン宣言(1955年7月)から70年である。昨年12月には、日本原水爆被害者団体協議会(被団協)にノーベル平和賞が授与された。また、水爆実験により

放射性降下物を浴び被ばくしたマーシャル諸島ロンゲラップ住民が、故郷を離れてから40年という年にあたる。今年度の企画ではこうしたことを踏まえた展示をおこなう。

#### ◇企画展＝核の時代とヒバクシャの歩み(5月～9月)

核兵器の開発から日本への原爆投下、核開発競争の時代、核被害者たちが立ち上がり、救済と核兵器廃絶を求めてきた歩みを年表や記録写真などで解説する。期間中に「ヒバクシャの声を聴く会」を開催する。

夏休み企画として、全国の小中学生から公募展「みんなの船 第五福竜丸」の作品を募集し展示をおこなう。

#### ◇企画展＝故郷を離れて ロンゲラップ環礁住民はいま(11月～3月)

島の人々は、健康被害を受けただけではなく、故郷を失うことで、生活や文化、伝統などを奪われてきたことを伝える。気候危機による島しょ地域の現状を合わせ伝える。

#### 船体・エンジン等の保存のために

第五福竜丸は建造から78年目を迎えた。通常、木造船の寿命は15年から20年といわれる。第五福竜丸は、敗戦後の食糧難の時代を担い、カツオ船から遠洋マグロ船へ、被ばく後は水産大学の実習船となり、通算で20年間稼働した。廃船となり水没寸前から市民運動、東京都の尽力により保存・展示館建設にいたった。

実際の耐用年数の数倍を経て、船体は40年前の大規模補修工事により保たれてきたものの、損傷が目立つようになっている。協会は、2009年より第五福竜丸船体等保存検討委員会を設け専門家委員による船体、エンジンの検討作業をおこない、三次元測量なども実施してきた。こうしたもとで、近年、船体木片の落下、ひび割れ、腐朽などが見られるようになってきた。

また、屋外展示のエンジンについても錆の進行による鉄部の剥落や落下、シリンダー部の割れと落下の危険なども想定されるようになってきた。

協会では、委員会での検討とともに、東京都とも連携しての対策やとりくみをすすめていく。船体状況調査、三次元測量の実施、エンジンの応急措置をすすめる。

#### ビキニ事件・第五福竜丸を伝えるとりくみ

- ・ 「第五福竜丸被ばく・ビキニ事件」の展示用パネル、「マーシャル諸島の核被害パネル」、「世界のヒバクシャ～核開発・核実験のもとで」(解説バナーと証言パネル)、映画「西から昇った太陽」などの活用をすすめる。
- ・ 各地での学習会や講演会等の開催をよびかけ、講師の派遣などをおこなう。

### 出版事業など

- ・ 「福竜丸だより」は展示館・第五福竜丸平和協会と賛助者、市民をつなぐメディアであり隔月の発行をおこなう。「たより」の別冊として展示館と協会の年次報告を作成し配布する。
- ・ 第五福竜丸・ビキニ事件に関するブックレットを刊行する。  
『久保山さんはなぜ死んだ』、図録『第五福竜丸は航海中』の増補パンフ制作。  
「第五福竜丸と展示館」を知らせる学習資料を発行する。
- ・ 開館50年にむけて、広田重道著『第五福竜丸保存運動史』復刻版の発行。
- ・ 『ビキニ事件と高校生』（遊行社刊）の普及に協力する。
- ・ 展示館の出版物、図録『第五福竜丸は航海中』、パンフレット『世界のヒバクシャ』、『わたしとビキニ事件』、ビキニ70年記念制作の映画『第五福竜丸』（監督・新藤兼人、ブルーレイ）などを普及する。

### 資料の収集と保存

- ・ 第五福竜丸やビキニ事件に関する資料の収集をすすめる。資料所蔵の施設などの拡充を都に要請する。
- ・ 平和協会所蔵の資料の整理、状況の把握とレプリカ制作など検討する。
- ・ 「福竜丸だより」のバックナンバーのデジタル化をすすめる。

### ボランティアのとりくみなど

- ・ 展示館来館者へのガイド、展示館活動への協力などボランティアのとりくみをすすめる。
- ・ ガイドボランティアの養成をはかる市民講座を開講する。
- ・ 子ども向け企画や小・中学生参加の企画(夏休み)などを検討する。

### その他のとりくみ

- ・ 博物館実習を受け入れる。
- ・ 展示館開館50年・船体建造80年にむけての記念事業のとりくみをすすめる。

以上